



日本共産党

北区議会議員

のの山けん区政レポート

http://www3.kitanet.ne.jp/~nonoyama/ E-mail nonoyama@kitanet.ne.jp

No.185 2011.10.19

日本共産党北区議員団

〒114-8508 王子本町1-15-22

☎相談は 090-2156-3510
お気軽に

内部被ばくはなぜ恐ろしいか

日本共産党北区議団が学習講演会

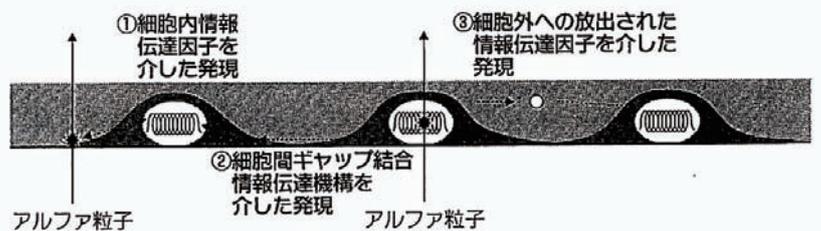


講演する松井英介氏 = 11日、北とぴあペガサスホール

11日、北とぴあ・ペガサスホールで、日本共産党北区議員団主催の学習講演会「見えない恐怖 放射線内部被ばくから子どもたちをどう守るか」が開かれ、80人が参加しました。主催者あいさつに続き、演壇に立った松井英介・岐阜環境医学研究所所長は「放射線被ばくは、外部被ばくと

内部被ばくに分けられる。外部被ばくはおもにγ線によるが、内部被ばくではα線、β線が主役となる。飛ぶ距離はγ線に比べ短い、はるかに大きな力で遺伝子に傷をつける。細胞核内の遺伝子に直接放射線がヒットしなくても、細胞質や近隣の細胞をヒットしたことによって起こる生物化学的な変化は『バイスタンダー効果』とよばれ、遺伝子、染色体にさまざまな異常を起こす(図)とのべ、たとえ低線量であっても、食物や飲料などを通した内部被ばくは、人体に大きな影響を及ぼすと強調しました。

また、松井氏は参加者からの質問に答えて「福島原発で何が起きているか真実が隠されていないのか、米国の利益優先で『原発を止めるな』というのはもってのほか。子どもたちの命を守るといふ点で団結し、こうした圧力を打ち破りましょう」とのべました。



出所:佐渡敏彦、福島昭治、甲斐倫明編著「放射線および環境化学物質による発がん」【第8章3 放射線の生物影響研究—最近の進歩】医療科学社、2005年より作成。

たきさん幼稚園、滝三小で除染対策

9月20日、北区は毎時0.25マイクロシーベルト(以下単位同じ)の放射線量を超える地点で除染対策をとる方針を発表しました。現在までに、この基準を超えた、たきさん幼稚園(0.38)、滝野川第三小学校(1.01)の2カ所で除染がおこなわれました。対策後の放射線量は、それぞれ0.06、0.07となりました。



滝三小の測定に立ち会う、日本共産党の八巻直人区議

環境、くらし、まちづくり

区民の願いにこたえる北区へ

この山事務所、日本共産党志茂・赤羽後援会が「都区政報告のつどい」

15日、赤羽会館小ホールで「都区政報告のつどい」(この山けん事務所、日本共産党志茂・赤羽後援会主催)が開かれ31人が参加しました。この山区議が区政報告をおこない、そねはじめ前都議があいさつしました。

この山区議はまず、福島第一原発事故の影響による放射線対策について

言及。子どもをもつ親な

ど区民の運動と区議会の

論戦を通じて、北区がよ

うやく毎時0・25ギシー

ベルトという除染対策基

準を決定したことを報告

しました。

今後、ホットスポット

の発見と対策に力を注ぐ

とともに、食品の安全性

を確保するよう区に要請

しているとのべました。

**全高齢者の実態を
まえ施策の充実を**

続いて、この山区議は、

人口の約4分の1が65歳

以上となり、23区でも高

齢化率がトップとなった

北区が今年度、全高齢者

実態把握調査をおこなっ

ていることを報告。す



あいさつする、そね前都議

に6割を超える高齢者からアンケート用紙が返送されており、「この調査の結果は今後の高齢者施策にしっかりと生かしてゆきます」とのべました。

住民の声生かした

赤羽のまちづくりを

さらに、この山区議は

赤羽公園の整備や「エ

キュート赤羽」が全面開

業した赤羽駅リニューア

ル工事の問題について報

告し、「地元のみなさん

の要望に耳を傾けなが

ら、住民の声を生かした

赤羽のまちづくりをす

めてゆきます」とのべ

区議団の値打ち

議会で光る共産党

そね前都議は「放射線

の問題でも、まっさきに



報告をおこなう、この山区議

独自の測定をおこなうとともに、区にねばり強くはたらきかけ対策方針を出させたのが日本共産党北区議員団。議会でもその値打ちが光っています」とのべました。

最後に、そね前都議は参加者に対し、石巻市への震災ボランティア派遣の協力を訴えました。